



江南市政レポート

研修会報告

7月14日(火)～16日(木)横浜市で行われた自治体議会政策学会主催の議員向け研修会へ参加しました。

どの講義も、理論ではなく講師の方の実践に基づく話でしたので、江南市が抱える問題の大変参考になりました。

◇人口減少期のまちづくり 大杉寛氏(首都大学東京教授)

◇分権改革と自治体議会の政策法務 磯崎初仁氏(中央大学教授)

◇信頼と付託に応える自治体財政運営 西寺雅也氏(名古屋学院大学教授、元多治見市長)

◇近年の災害に学ぶこれからの地域防災のあり方 片田敏孝氏(群馬大学大学院教授)

◇地域で進行する福祉課題と自治体の政策 平野隆之氏(日本福祉大学副学長)

◇横浜市における公民連携 河村昌美氏(横浜市政策局共創推進室共創推進課)



江南阿波おどり

8月8日(金)～10日(日)第40回江南市民サマーフェスタ(江南七夕まつり・市民サマーフェスタから名称変更、主催;江南商工会議所・江南市商店街連合会/後援;江南市)が開催されました。

その中のイベントとして、8日は布袋会場(名鉄布袋駅西側)で、9日は古知野会場(江南市民文化会館;江南駅西ロータリーから変更)で行われた江南阿波おどり大会に「江南市議会議員有志連」として参加しました。江南でなぜ「阿波おどり」かという疑問ですが、丹羽郡宮後村(現江南市宮後町)で生まれた初代徳島藩主・蜂須賀家政〔父は蜂須賀正勝(小六)〕が、阿波おどりの起源である踊りを始めたことに由来するようです。初めて踊りましたが、とても楽しかったです。

農地利用状況調査

10月上旬に農業委員として市街化調整区域の農地利用状況調査を行いました。これは毎年9～11月に農業委員の全員が担当区域を決められて行っています。私の担当区域は国道155線沿いの東端(五条川)から西端(一宮市との境界)までです。農業委員会では月1回の会議だけでなく、このような調査や研修も行っています。



9月定例会開催

9月2日(水)～28日(月)の会期で江南市議会9月定例会が開催され、8日(火)・10日(木)・14日(月)に一般質問が行われました。22名の議員のうち20名が一般質問をし、活気ある市議会になっています。



<私が行った一般質問での主要内容>

1. 教育行政について

(1) 平成27年度全国学力・学習状況調査について

教育委員会は調査結果をどう生かし、また、分析結果の公表についてはどうするのか。さらに、市長の考えを尋ねました。

分析結果の公表は、学校での学習指導の改善のためだけではなく、家庭や地域の教育力向上に生かしていくことが必要であると考えます。教育委員会では、これまでと同様、「子どもたちのよりよい生活を求めるための公表」を、教科に関する調査の結果とともに、広報こうなん2月号などで行っていきます。市長もこの教育委員会の方針を尊重します。

(2) 中学校における部活動について

生徒と教職員の健康管理や負担軽減の意味から、中学校における部活動を学校任せにするのではなく、教育委員会としても関心を持ってほしい。特に教育委員会として週1日休みを推奨することと、早すぎる登校時間の見直しを提案しました。

※日本学生野球憲章には「原則として1週間につき最低1日は野球部としての活動を行わない日を設ける」とあり、大学・高校の野球部は最低週1日の休みの日を設けています。

現在、市の中学校においては土・日のいずれか一方、あるいは毎週月曜日など、できる限り週に1日は部活動を行わないようにするよう努めています。

また、朝練の開始時刻は7:15が2校、7:30が3校です。中学生にとって精神面、身体面からも部活動の意義は小さくはありませんが、過度な練習の実施は生徒や教員に対する負担が大きく、健康管理の面からも望ましいことではありません。今後も生徒の健康管理に留意するとともに、教員の負担軽減の意味からも、適切な対応をしていきます。

(3) 小・中学校における教職員の駐車料金について

県の職員である小中学校の教職員から駐車料金を徴収しているのは、江南市以外では名古屋市(名古屋市は採用も名古屋市)と扶桑町だけです。そのため、教育現場では江南市立小中学校への転勤希望者減少という弊害が起きています。見直しを提案しました。

江南市と他の市町の小中学校で勤務している教職員との公平性の問題と、同じように市の施設で働いている市の職員との公平性の問題があります。現在、市では施設・設備利用料等の見直しをしており、この件に関しても考えていきます。

(4) 県立高校施設の市民利用について

名古屋市内の県立高校のうち19校において、運動場、テニスコート、体育館、武道場などの利用ができます。市内3つの県立高校では運動場(野球とサッカー)は利用できるようですが、それ以外の施設は利用できないのかを尋ねました。

今後、他のスポーツで利用希望がありましたら、あらためて県立高校と協議します。

2. 福祉行政について

(1) 福祉の専門職員採用（社会福祉協議会を含む）について

障がいのある方に関する相談に総合的・専門的に対応するため、平成 25 年 4 月から江南市基幹相談支援センターを福祉課に設置しました。しかし、専門職員は、正規職員の保健師が 2 名とパート職員の社会福祉士が 1 名の計 3 名しかいません。また、江南市社会福祉協議会も人員不足で、基幹相談支援センターを全面委託できない状況になっています。

どちらも専門職員を採用するなどして相談体制を充実させることを提案しました。

今後は人事当局などと協議を重ねながら、相談支援体制の充実に向けて検討します。

(2) 総合支援協議会の運用について

江南市総合支援協議会（福祉関係事業者の連絡組織）を実質的に機能させるため、下部組織の早期設置を提案しました。

可能な限り来年度から下部組織の設置を行いたいと考えています。年度内には各関係機関に声を掛けさせていただき、設置に向けての協議を進めていきます。

(3) 高齢者・障がい者への給食サービスについて

65 歳以降のひとり暮らしの方、要介護者のいる高齢者世帯であって心身が弱く支援を必要とする方、ひとり暮らしの障害者の方を対象とした給食の宅配サービス（1 食当たり 250 円を補助）について、特別な事情がある方にはどのように対応しているのかを尋ねました。

同一敷地内に家族が居住の方、昼間独居の方は、安否確認ができていると考えますのでこのサービスは利用できません。しかし、特別な事情がある方につきましては職員が個別に聞き取り等の調査を行い、柔軟に対応させていただいています。

3. 経費削減に対する取り組みについて

(1) プリンターのリサイクルトナーの使用について※現在市では純正品のみを使用

純正品（今年度約 530 万を予定）以外のリサイクルトナーを使用すると約 210 万円（5 分の 2）の経費削減ができます。純正品以外の利用の検討を提案しました。

試験的に影響が少ないと考えられる部署において価格の安いリサイクルトナーへ切り替え、問題が生じないか検証し、問題がなければ使用範囲を広げていきます。

(2) 広告について※市が広報やホームページで得ている広告収入

昨年度の市の広告収入は 381 万 1500 円でした。今後、有料広告に関する新たな取り組みを考えているのかを尋ねました。

先進事例などを参考に新たな広告媒体や実施方法を調査し、有料広告として掲載することの適否を考慮しながら、歳入の確保に努めていきます。

(2) ネーミングライツについて※公共の施設への命名権を与えることによる収入

現在市ではネーミングライツを導入していません。今後の導入予定を尋ねました。

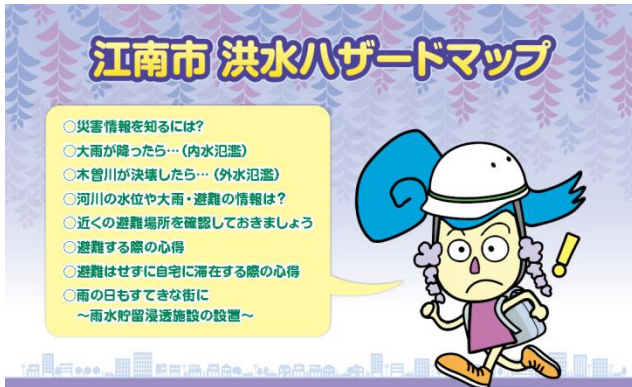
若手職員 6 名による政策提案プロジェクトチームにおいて、年度中を目標に具体的な政策を検討しており、政策として取りまとめた上で、改めて議会へ報告します。

(2) 公民連携事業について

市での公民連携は指定管理者制度だけです。今後の取り組みについて尋ねました。

PFI・PPP 協会の先進事例などを参考に、民間資金の活用による歳出削減や効果・効率的な公共サービスなどについても、引き続き調査・研究を行ってまいります。

木曽川水系氾濫シミュレーション



概ね30年に1回の起こる気象を「異常気象」と呼んでいます。近年異常気象が毎年のように起こっています。

9/10(木)に鬼怒川(きぬがわ)が茨城県常総(じょうそう)市で氾濫(はんらん)しました。午前6時すぎに決壊場所から約5~25キロ上流の3カ所で、水が堤防を越えてあふれる「越水」が発生。堤防から水が漏れる「漏

水」も2カ所であり、午後0時50分に決壊したそうです。

この決壊場所は、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所が公表している「鬼怒川・小貝川氾濫シミュレーション」とほぼ同じ場所でした。鬼怒川の場合は100年に1回程度発生すると考えられる雨量で、鬼怒川上流域の3日間総雨量402.4mmとしています。今回の決壊では、朝からテレビでも「50年に1回の大雨が降る予測です。ご注意ください。」と報道されていました。

木曽川にも「木曽川水系氾濫シミュレーション」が国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所によって策定されています。

この浸水想定区域等は、基準地点(犬山)において概ね200年に1回程度起こると想定される洪水により木曽川が氾濫した場合の浸水状況を予測したものです。

これが「江南市洪水ハザードマップ」にも載っています。冊子にもなっていますが、江南市のホームページでもご覧いただけます。大雨による浸水について、避難する際の心得、避難せずに自宅に滞在する際の心得なども載っています。

◇木曽川水系氾濫シミュレーション(国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所)

<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/rootup/>

◇江南市ハザードマップ(江南市役所防災安全課)

https://www.city.konan.lg.jp/bousai_anzen/hazard_map.pdf

◇市政へ対するご意見、ご要望、ご質問および地域的課題などは下記へご連絡ください◇

藤岡和俊後援会 藤和会(とうわかい)

電話&FAX (0587) 53-4050 〒483-8258 愛知県江南市上奈良町郷11番地1

URL ; <http://www.towakai.jimdo.com/> e-mail ; kazutoshi_fujioka@yahoo.co.jp

木曽川が決壊したら…(外水氾濫)

※浸水想定区域図

国土交通省中部地方整備局河川事務所
この浸水想定区域図は、洪水発生時の想定される浸水の範囲と
なる区域(内水)にあり、約500年に1回の降雨量、100
年以上の上流(外水)からの洪水、約100年に1回の降雨量
想定による洪水(外水)に起因する浸水(外水)の範囲を示す
浸水想定シミュレーションによる予測結果です。

